

令和6年 第2回鹿沼市立小中学校教科用図書選定委員会 会議録

1 日 時 令和6年7月11日(木) 開会 午後13時30分 閉会 午後16時20分

2 場 所 鹿沼市民情報センター 5F マルチメディアホール

3 出席委員

会 長	中村 仁	鹿沼市教育委員会教育長
副会長	湯澤 正弘	鹿沼市立東中学校長
委 員	倉松 俊弘	鹿沼市教育委員会教育長職務代理
委 員	猪瀬 武	鹿沼市立西中学校長
委 員	古橋 恵	鹿沼市PTA連絡協議会理事

1 その他の出席者

鹿沼市教育委員会事務局学校教育課教育指導担当兼指導係長事務取扱	吉江 紫
鹿沼市総合教育研究所	指導主事 高野久美子
鹿沼市教育委員会事務局 学校教育課指導係	指導主事 本郷由起子
〃	指導主事 大門千恵子
〃	指導主事 辻 和之
鹿沼市総合教育研究所	指導主事 雉嶋 邦彦
鹿沼市教育委員会事務局学校教育課指導係	指導主事 津田 渉
〃	指導主事 荒木 暢子
〃	指導主事 井上 克也

5 議 事 <司会：事務局 吉江>

(1) 開会 <事務局：吉江>

- ・本会は、鹿沼市立小中学校教科用図書選定委員会会則第3条により組織され、第5条により開会する。
- ・なお、本委会則第7条規定により、本会議は傍聴することができるが、本日は傍聴者なし。

(2) 教育長あいさつ

- ・本会は1回目の5月10日に1回目に調査員を承認。
- ・5月中旬から調査をしていただいた結果について、答申を受ける。各規約にそって進行。慎重な審議を。
- ・本会議録については、ホームページにて公開の対象となる。ただし、傍聴要領、会議要領に沿って発言者については非公開となる。率直な意見をいただきたい。
- ・このあと教育委員会にて正式に採択となるが、その後公開されるまでは情報の取り扱いには慎重を期していただきたい。調査員はずっと非公開。名前を出さないようにお願いしたい。

(3) 選定委員会委員及び事務局の紹介

- ・委員紹介及び出席者自己紹介。
- ・出席者過半数のため本会は成立する。

(4) 日程及び資料についての説明

(5) 協議記録 <司会：中村会長>

①会議録承認

- ・口頭説明 <事務局：大門>
- ・質疑なし
- ・全委員により承認

②会議録署名人の指名について <中村会長>

- ・第2回会議録署名人は、会則第6条第2項により倉松 俊弘 委員、湯澤 正弘 委員にお願いしたい。

③-1 調査研究の経過について<事務局：大門>

- ・採択の基本方針に従い、3回調査委員会を実施し、32名の調査員が調査研究を行ってきた。
- ・このあと、代表者から説明をさせていただく。

③-2 答申

●中学校 国語・書写（主任）

- (委員) 鹿沼市の児童生徒の実情に応じて選定することとなっているが、光村図書には基礎基本の定着、特に思考力・判断力・表現力を育成していく上でのよさはどのようなところにあるのか？
- (主任) 教材には文章を書く際の具体例が多く記載されており、多くの文章にふれることができるようになっている。
- (委員) 東京書籍の「翻訳コンテンツ」について詳しく教えてほしい。
- (主任) 教科書の内容と母国語を照らし合わせて学ぶことができる。

●中学校 社会・地図（主任）

- (委員) 歴史的分野新聞に出た南京事件、従軍慰安婦など、以前は過剰なものがあったが、最近の教科用図書はどのような記載があるか？
- (主任) どの教科書も偏りなく記載がある。文部科学省の検定を受けた教科書でもあるので、問題はないと考えている。
- (委員) 分野によって教科書会社が違うが、指導のやりにくさはないのか？
- (主任) 地図帳と地理的分野については教科書を同じにした方がよいと考え、同じ教科書会社のものを推薦した。歴史と公民に関しては、教科横断的な学習を行いやすいという観点と、それぞれの分野での指導のしやすさという観点でこれらの教科書会社を推薦させていただいた。

●中学校 数学（主任）

- (委員) 事務局への質問。学校の希望からあった啓林館、日本学校図書についての希望理由を教えてください。
- (事務局) 啓林館は、問題のレベルがまんべんなく用意されており、例なども順序立ててわかりやすい。日本学校図書は、思考力を育成する内容になっている。問題場面において、どの思考力を使うか明確になっている。という回答があった。
- (委員) 深い学びのページについて具体的にどのようなものか。
- (主任) 応用や活用ができ、単元で学習した力を活用できる場面が設定されている。
- (委員) 個別最適な学習にもなり、授業の進め方も変わってくるのかと思う。活用の仕方ですぐできそうなことがあれば。
- (主任) 今回の教科書では、二次元コードが充実しており、自分の進度に合わせて学習を行える工夫が多くあり、個別最適化を図った学習が行いやすいと感じた。
- (委員) 数学科での対話的という観点について具体的にどういうことか。

(主任) 各单元ごとに、生徒同士の対話、教師と生徒の対話もうまれやすい内容が扱われている。互いの考えにふれることによって理解が深まるように構成されている。

●中学校 理科 (主任)

(委員) 啓林館の教科用図書で概念や原理・法則の理解が図りやすいとあった。書き込むことによって概念と原理がわかりやすくなるのか。

(主任) 課題、仮説、計画の学習の流れで、知っている知識を使って仮説をたてやすくなるよう記載されている。計画をたてることに関しても、アドバイスが載っており、子供が探究しやすい。探究の流れができていくシートになっている。

(委員) 何となくわかっていることの概念が形成され、原理の理解がしやすいのか。概念の形成については、日常生活と結びつくことによって形成されていくと思うが、どのような工夫がされているのか。

(主任) 最後のまとめにおいて、今まで身につけたものが日常生活でどのように扱われているかを理解できる場面があり、「おおまかな理解」だったものを知識と結び付け、理解できるように取り扱われている。

(委員) 教科書への書き込みについて。書き込みにくくないのか。

(委員) 紙質自体に大きな変化はないが、生徒が教科書に書き込むことに問題はないと思う。

●中学校 音楽 (主任)

(委員) 音楽一般の教育出版の教科書で楽譜が見やすくなった点はどのような点か。

(主任) 楽譜の見やすさは他社とは変わらないと思うが、楽譜を比較する点がとてもわかりやすく、違いを理解するための見やすさがあると思う。

●中学校 美術 (主任)

(会長) 現在採択している教科書会社と異なるが、違う教科書会社を選んだ事に対しての話題になったことがあれば。

(主任)) 同じ教科書を継続して使用するという視点ではなく、全体を比較し、美術を通して生徒同士が他者とつながれるという視点での記載が優れていると感じた。

●中学校 保健体育 (主任)

(委員) 保健体育の教科書には、体育の実技分野に関する内容は入っているのか。

(主任) 実技の指導書と保健の教科書を合わせて指導している。体力テストの結果などを生かして指導することが多い。

●中学校 技術 (主任)

・質疑なし

●中学校 家庭 (主任)

・質疑なし

●中学校 英語 (主任)

(委員) 事務局へ確認。学校希望だと東京書籍がある程度の数があるがその理由を。

(事務局) ・单元ごとの最終ゴールの活動に取り組みやすいように思う。

・レイアウトが見やすく、目的・場面・状況を踏まえた表現活動がしやすい。

・ステップを踏みながら、単元の学習ができる。トピックも多岐に渡り、幅広い知識を得るこ

- とができると感じた。語順の学習が紙とデジタルの両方でできるところも魅力的である。
- ・扱いやすい教材で、文法事項の導入も生徒が学習しやすい順で登場しているため。
- ・扱っているトピックが今の社会状況に合っていると思われる。
- ・文法の説明がわかりやすく、視覚的にも見やすい構成になっている。
- ・生徒を一人の学習者として成り立たせるためのアドバイスが豊富に載っている。"
- ・デジタル教材を用いた個別学習が可能であること

- (委員) 東京書籍を希望しており、小中のつながりがあるということを記載している学校もあったが、今回教科書が変わることについて、その部分の議論はどうであったか。
- (委員) 単語や表現が変わることもあると思うが、いかに力をつけ、生徒が活用していくかという観点で調査員の意見が一致した。それ以外の教科書会社だと自然な習得状況にないと判断した。
- (委員) 重要な視点。十分承知したうえで、重視して選んだということによいか。
- (主任) 吟味し、話し合う中で、何が大切かということに重点を置いて調査した。使って身に付けさせていくことに焦点をあてた。
- (委員) 教科書会社が変わることで教師側の指導法はスムーズに移行できるか。何か利点があれば教えてほしい。
- (主任) 並び順でどうかと考えたときに、不定詞、現在完了など極端な差はなかった。知っている内容を活用して情報交換し、自分の意見をまとめていくなど生徒にとって学びやすく理解しやすい構成となっている。
- (委員) 小学校は、音声言語から入り、聞いてから話すことや記述することなどにつながっていると思うがどうか？
- (主任) すべて確認した。小学校からのつながりを意識した内容となっており、「話を聞く→スピーキング・ライティング」と同じ活動で続いている。
- (委員) 4技能5領域とあるがそのことについて教えてほしい。
- (主任) 「読む・書く・聞く・話す」の「話す」領域が2つに分かれている。①即興性、伝え合う②まとまった量の情報を聞いて、準備して話す、という内容になっている。

●中学校 特別の教科 道徳 (主任)

- (委員) 命の尊さ、いじめの問題が重要視されると思うが、扱い方についてはあったか。
- (主任) どの教科書会社も重きを置いて扱っていた。扱う内容は違うが、言いたいことは同じであった。その中でも、特に今回の推薦した教科書がいじめの問題を自分事として扱えると思う。

●小学校 特別支援学級 (主任)

- ・質疑なし

●中学校 特別支援学級 (主任)

- ・質疑なし

④協議 <中村会長>

まずは、中学校各教科について種別ごとに御意見を。

- ・意見なし

次に、小中学校の特別支援学級について御意見を。

- ・意見なし

全般を通して、感想等あれば

- (委員) 他教科とのつながりというワードがたくさん出されていた。そういう視点で選ばれていると感じた。

「対話的」、「コミュニケーション」というキーワードが多いと感じた。
(委員) 丁寧な報告をいただいてありがたい。

⑤選定 <中村会長>

調査員の答申通り、選定を行ってよいか。

・異議なし

(6) その他

7月26日(金)に教育委員会で採択決定となる。その後各学校、県教委に報告となる。
情報を公開するまで非公開扱いとなる。委員へ教科書会社等から質問があったら事務局へ。

(7) 閉会

以上をもって、午後16時20分に閉会した。

この会議の次第は、書記(荒木 暢子、井上 克也)の記載したものであるが、その内容が正確であることを
証するためにここに署名する。

会議録署名人

倉松 俊弘

湯澤 正弘

